

2025 年度 傾斜的研究費（全学分）国際研究環支援 研究報告書

※本学 HP での公表を前提に記入してください。

【研究費区分】：国際研究環支援

【研究代表者所属】：人文社会学部

【研究代表者氏名】：浅川哲也

【研究代表者氏名フリガナ】：アサカワテツヤ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・竹部歩美（静岡県立大学・教授）
- ・劉志偉（埼玉大学・教授）
- ・井上直美（早稲田大学・准教授）
- ・グリブ・ディーナ（名古屋大学・講師）
- ・劉永亮（東京都立大学・助教）
- ・李恵（東京都立大学・助教）
- ・李讓珍（韓国・慶北大学・助教授）
- ・馬雲（中国・江西農業大学・講師）
- ・華迪聖（中国・浙大城市学院大学・講師）

【HP（*本研究の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

- ・ <https://tmugengokenkyu.weebly.com>

【活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（800～1000 字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

- ・東京都立大学言語研究会の構成員（会員）のうち、日本国内・日本国外の高等教育機関で活動している研究者を中心に共同研究のグループを形成した。
- ・研究課題とする「まったく新しい日本語教科書」とは、現代日本語の談話体（日常的な話し言葉の文体）を主な教材文とする外国人日本語学習者のための日本語教科書である。
- ・「まったく新しい日本語教科書」とは、現代日本語の音韻・音声・文法・語彙・待遇表現（敬語）の各分野について、それぞれ談話体を中心とする観点から構成される日本語教科書である。
- ・研究グループとして、「まったく新しい日本語教科書」の上記の構想を確立し、その執筆・作成のための準備を共同研究者とともにいった。
- ・国際シンポジウムを開催し、「まったく新しい日本語教科書」の構想にかかる共同研究者の調査結果と研究の成果と持ち寄り、これを招待講演の形式で広く発信するとともに、高等教育機関における言語教育・言語研究の問題点について国際的な視野で討議した。
- ・「まったく新しい日本語教科書」の構想のため、中国国内における日本語専攻の学科を有する大学、および、日本国内における外国人日本語学習者向けの日本語学校等、それぞれで行われている日本語教育の教材（教科書・投げ込み資料など）の使用の実態とその教材としての問題点について調査し分析した。

- ・「まったく新しい日本語教科書」の構想のため、現代日本語における日本語母語話者の談話体の使用実態について年代別・場面別に調査し、日本語母語話者の談話体と日本語教育で教材となっている口語体との乖離を明らかにした。
 - ・「まったく新しい日本語教科書」の構想のため、音韻・音声・文法・語彙・待遇表現の各分野における日本語母語話者の談話体の実態を明らかにした。
 - ・今後の予定としては、共同研究者の研究成果を持ち寄り開催された国際シンポジウムでの討議内容を踏まえて、「まったく新しい日本語教科書」の実際の執筆、製作活動に入り、その進捗については経過報告として、新たに国際シンポジウム等を企画開催し、公開していく予定である。
- (※研究の全体の目的・意義に照らし、当該年度の研究で、どのように進捗・達成されたかも含め記載すること。)

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

- ・「いわゆる〈有対動詞〉における下一段活用動詞の可能動詞化について」，浅川哲也（単独），（日本語学会 2025 年度春季大会・名古屋大学・2025 年 5 月 10 日）

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

- ・「談話体を教材とする〈まったく新しい日本語教科書〉の構想」（『言語の研究』第 17 号（特集号），2026 年 3 月）

【学術会議開催実績報告】

- ＊ 2025 年度 国際シンポジウム「談話体を教材とする〈まったく新しい日本語教科書〉の構想とその準備」（主催：東京都立大学言語研究会）

1, 日時 2026 年 2 月 11 日（水）11：00～18：00

2, 会場 オンライン開催

3, 次第

【基調講演】

- ・談話体を教材とする〈まったく新しい日本語教科書〉の構想：浅川 哲也（東京都立大学）

【招待講演】

- ・い抜き言葉の成立と展開—発生の歴史的背景—：浅川哲也（東京都立大学）
- ・ラップ歌詞に見られるイ抜き言葉の使用実態：華迪聖（中国・浙大城市学院大学）
- ・国会会議録に見られる「(テ) クダサイ」の表現形式と使用実態：竹部歩美（静岡県立大学）
- ・「～こと＋ではない」の定型表現と意味・機能—「こっちゃない」に注目して—：井上直美（早稲田大学）
- ・日本語談話における「ますか」の再発見—「ましょう」「ませんか」を越えて考える誘いの表現—：李譔珍（韓国・慶北大学）
- ・「～てくれる／～てもらう」の使用にみられる母語話者と日本語学習者との間にある差異について：劉永亮（東京都立大学）
- ・日本国内の日本語学習者にみられる日本語教科書に対する違和感の諸相—話し言葉はどこまで教えられるのか—：グリブ・ディーナ（名古屋大学大学院）
- ・中国国内で使用されている日本語教科書にある会話文例についての分析：馬雲（江西農業大学）
- ・語における音声転訛等について：劉志偉（埼玉大学）
- ・日本語の話し言葉における母音 /i/・/e/ の知覚と産出にみられる揺れ—教材開発へのひとつの示唆—：李恵（東京都立大学）

【研究発表】

- ・〈ノダ形式〉の原形と撥音便形の間に見られる意味用法上の相違点：鎌田彩花（東京都立大学人文社会学部生）
- ・形容動詞の連体修飾における「な」と「の」の混在について—中国人学習者の使用する日本語教科書を中心に

一：魏芳（東京都立大学大学院生）

- ・中国語を母語とする上級日本語学習者における教科書で扱われていない文法項目への理解度について—新しい文法教材の開発に向けて—：翟邦沛（東京都立大学大学院生）

【パネルディスカッション】

浅川哲也（東京都立大学・教授）・竹部歩美（静岡県立大学・教授）・劉志偉（埼玉大学・教授）・井上直美（早稲田大学・准教授）・グリブ・ディーナ（名古屋大学・講師）・劉永亮（東京都立大学・助教）・李恵（東京都立大学・助教）・李譔珍（韓国・慶北大学・助教授）・馬雲（中国・江西農業大学・講師）・華迪聖（中国・浙大城市学院大学・講師）

（※国際学術会議にあたるものには「・」を「＊」にすること。）

【海外研究者の招聘実績】

- ・なし（主にオンラインでの開催となったため）

【外部資金への応募状況】

- ・令和 8(2026)年度 基盤研究（C）応募、不採択

【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・なし

【受賞等】

- ・なし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献，生涯学習支援・普及啓発，国際貢献・国際交流等]

- ・なし

【研究成果による特許等の産業財産権の出願・取得状況】

（産業財産権の種類，名称，出願番号，出願年月日）

- ・なし

【研究分担額】

（研究代表者・分担者名,所属,金額（円））

- ・研究代表者：浅川哲也，東京都立大学，1,500,000 円